

株式会社ケー・イー・シー桑名事業所における 廃棄物焼却施設建設事業に係る 環境影響評価準備書のあらまし

◆ 事業の概要

本事業は、三重県桑名市において、環境負荷の低減に資する高度な技術を活用した廃棄物の適正処理、余剰エネルギーを活用した発電による省エネルギー及び脱炭素への貢献、併せて大規模災害発生時に災害廃棄物を迅速に処理する拠点機能を確保することを目的として「廃棄物焼却施設」及び「破碎施設」を整備するものです。

項 目	計画の概要
施 設 の 所 在 地	三重県桑名市福岡町 471-1 ほか
処理するごみの種類・処理能力	焼却するごみの種類 汚泥、廃油、廃酸、廃アルカリ、廃プラスチック類、ゴムくず、動植物性残渣、引火性廃油、特定有害（汚泥・廃酸・廃アルカリ・廃油）、腐食性廃酸、腐食性廃アルカリ、感染性廃棄物、木くず、金属くず、ガラスくず等、がれき類、紙くず、繊維くず、動物系固形不要物、燃え殻、ばいじん、一般廃棄物（普通ごみ（可燃ごみ・粗大ごみ）・混合ごみ）、特別管理一般廃棄物 ※水銀含有ばいじん等は受け入れない
	破碎するごみの種類 廃プラスチック類、ゴムくず、木くず、金属くず、ガラスくず等、がれき類、紙くず、繊維くず、一般廃棄物（普通ごみ（可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ）・混合ごみ）、特別管理一般廃棄物
	処理能力 焼却：1日あたり 224.79 トン 破碎：1日あたり 738.72 トン
ごみの処理方式	ストーカ炉とロータリーキルン炉を併用します。
ごみの搬入計画	ごみの搬入ルートには、一般国道 23 号、一般国道 258 号及び伊勢湾岸自動車道の幹線道路から三重県道 69 号湾岸桑名インター線、市道福岡 11 号線、市道福岡 3 号線、市道太平福岡 1 号線を主に使用します。
給 水 計 画	桑名市上水を使用します。
排 水 計 画	ごみ処理施設から生じる排水は、炉内噴霧等の高温酸化処理を行うため、施設外には排水しません。生活排水は、合併浄化槽等で処理し、公共用水域に排水します。敷地内に降った雨水等は、構造物基礎を利用した水槽で回収し再利用しますが、必要量以外の雨水は油水分離槽を介して排水します。
防 災 計 画	建築基準法、消防法等の関係法令を遵守し、安全な施設設計とします。 洪水、津波、高潮に対しては、主要な設備が水没しないよう盛土による嵩上げを行います。 また、災害発生時の避難場所として、新設事務所棟（4 階建て）の 4 階部分を利用できるよう計画しています。

◆ 対象事業実施区域の位置と現況



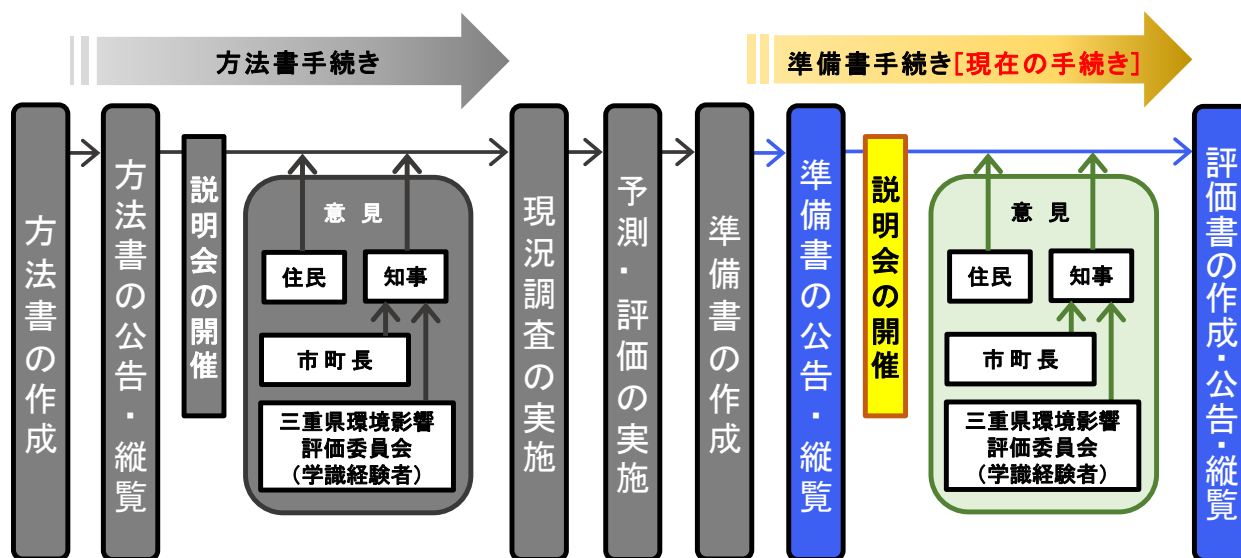
◆ 環境影響評価とは

環境影響評価（環境アセスメント）とは、事業を実施することによる環境影響を、事前に調査・予測・評価するものです。その内容は、公告・縦覧や住民説明会などにより一般に公開し、住民、行政（三重県や関係市町）、事業者が環境保全の見地からの意見を出し合い、より良い環境保全対策を求める仕組みとなっています。

◆ 環境影響評価の手続き

廃棄物焼却施設建設事業の環境影響評価は、三重県環境影響評価条例（以下、県条例という。）に基づいて実施されます。

県条例に基づく手続きとして、事業者が提出した環境影響評価の図書（方法書・準備書など）について、各分野の専門家（学識経験者など）で組織する三重県環境影響評価委員会が内容を審議します。また、住民説明会で内容をご説明し、意見書などにより住民の皆様の意見を集める機会が設けられています。



◆ 準備書とは

準備書とは、現況調査の結果と、事業が環境に与える影響を予測・評価した結果を、環境保全措置等（影響を小さくするための対策）とともに記載したものです。

準備書に対する住民や知事からの意見を踏まえて、必要に応じて内容を修正し、評価書を作成します。

◆ 環境影響評価項目

環境影響評価を行う項目は、廃棄物焼却施設建設という本事業の特性や、既存資料調査から得られた対象事業実施区域周辺の自然的条件（気象・地形・生態系など）、社会的条件（土地利用など）をもとに選定しました。

環境影響評価を行う項目は、以下のとおりです。

			影響要因の区分		工事の実施						土地または工作物の存在及び供用						
			細区分		重機の稼働	資材の運搬	土地の造成	地盤改良	工作物の建設	廃棄物の発生・処理	造成地の存在	工作物の存在	工作物の供用・稼働	関係車両の走行	廃棄物の発生・処理	エネルギーの使用	緑化等
環境要素の区分			細区分														
大気環境	大気質	二酸化硫黄（SO ₂ ）											●				
		二酸化窒素（NO ₂ ）	●	●									●	●			
		浮遊粒子状物質（SPM）											●				
		微小粒子状物質（PM2.5）															
		塩化水素（HCl）										●					
		ダイオキシン類（DXNs） その他必要な項目（水銀）															
		粉じん（降下ばいじん）	●	●	●								●				
	騒音	騒音レベル	●	●								●	●				
	振動	振動レベル	●	●								●	●				
	低周波音	低周波音圧レベル										●					
悪臭	特定悪臭物質濃度または臭気指数（臭気濃度）										●						
水環境	水質	浮遊物質（SS）			●												
		水素イオン濃度（pH）			●	●											
		土壌沈降試験			●												
土壌		ダイオキシン類										●					
日照阻害										●	●						
陸生動物			●	●	●			●		●	●		●				
陸生植物					●					●	●						
水生生物（陸水生物）					●												
生態系					●			●		●	●						
人と自然との触れ合い活動の場										●	●						
景観										●	●						●
廃棄物等					●				●					●			
温室効果ガス等												●				●	
安全性（メタンガス）											●						

※表中の●は、環境影響評価の項目として選定する項目を意味します。

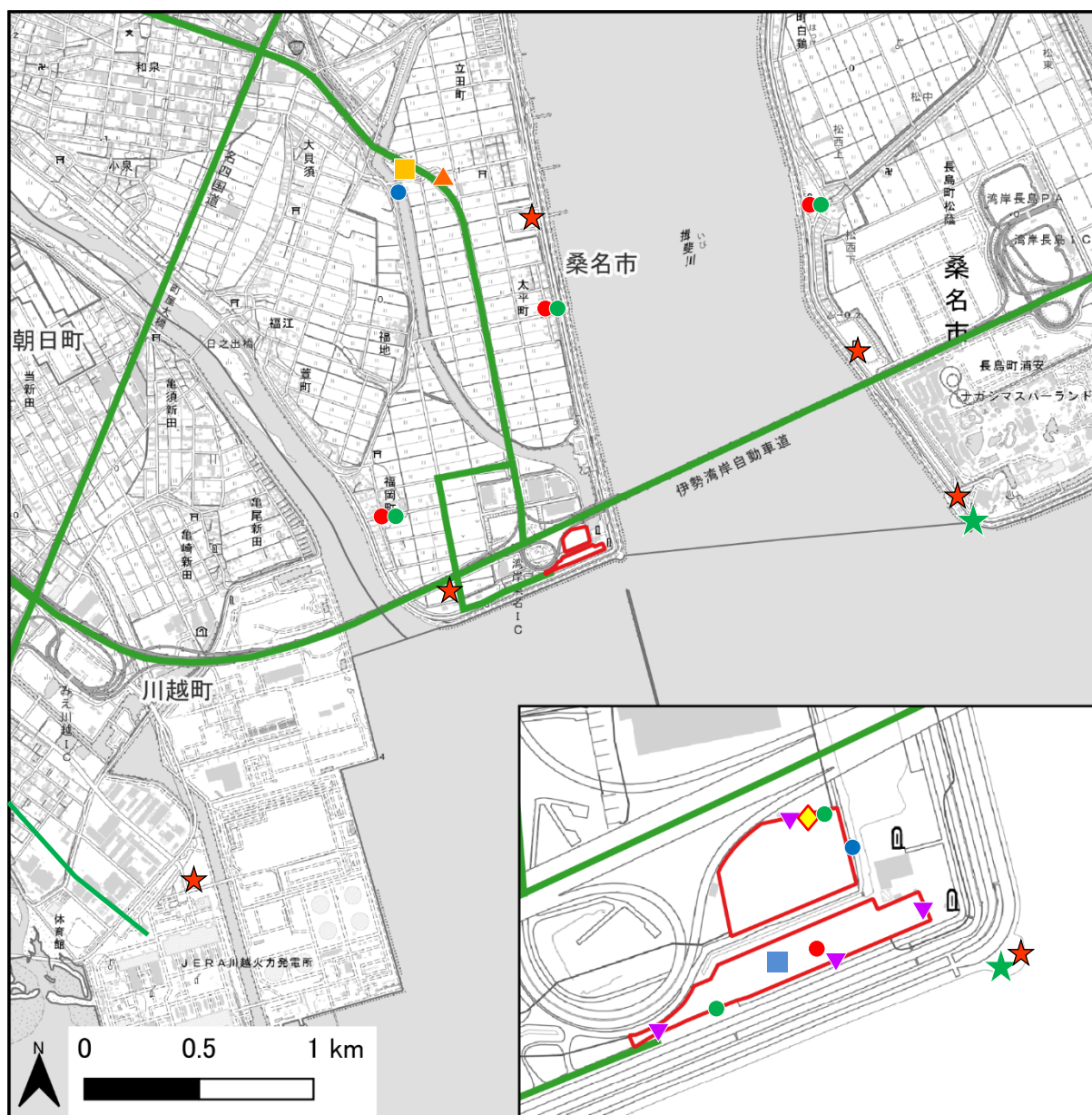
◆ 現地調査計画

現地調査の内容（項目・地点・期間等）は、以下のとおりです。

環境影響評価項目	調査項目	調査地点・範囲	調査期間・時期
大気質	【環境大気質】 粉じん	対象事業実施区域内 1 地点	4 季 各 1 回
	【環境大気質】 二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀	対象事業実施区域内 1 地点 及び周辺 3 地点	4 季 各 1 回
	【環境大気質】 微小粒子状物質		2 季 各 1 回
	【沿道大気質】 二酸化窒素、浮遊粒子状物質、粉じん	車両が走行する道路沿道 1 地点	4 季 各 1 回
	交通量（方向別・車種別、時間別）、 走行速度	車両が走行する道路断面	平日の 1 日（24 時間）
	地上気象の状況（風向、風速、気温、 湿度、日射量、放射収支量）	対象事業実施区域内 1 地点	1 年間連続
	上層気象の状況（風向、風速、気温、 湿度、逆転層の発生状況）	対象事業実施区域周辺 1 地点	4 季 各 1 回 1 日あたり 8 回観測、7 日間
騒音・振動・ 低周波音	【環境騒音・振動】 騒音レベル、振動レベル、 低周波音圧レベル	対象事業実施区域敷地境界 4 地点	平日・休日の各 1 日 （24 時間）
	【道路交通騒音・振動】 騒音レベル、振動レベル、 地盤卓越振動数	車両が走行する道路沿道 1 地点	平日の昼間（6 時～22 時）
	交通量（方向別・車種別、時間別）、 走行速度	車両が走行する道路断面 （大気質の交通量と同じ）	平日の 1 日（24 時間） （大気質の交通量と同じ）
悪臭	特定悪臭物質濃度、 臭気指数（臭気濃度）	対象事業実施区域敷地境界 2 地点及び周辺 3 地点	夏季及び冬季 各 1 回
水質	水素イオン濃度、浮遊物質濃度	排水の影響が想定される水域の 2 地点	平常時 4 季各 1 回 降雨時 2 回
	土壌沈降試験	対象事業実施区域内 1 地点	1 回
土壌	ダイオキシン類	対象事業実施区域内 1 地点 及び周辺 3 地点（環境大気質 と同じ地点）	1 回
日照障害	日影の状況	対象事業実施区域北側敷地境界 1 地点	秋分の日及び冬至日に近い晴天日の各 1 回
動物・植物	陸生動物 （哺乳類、鳥類（一般鳥類）、猛禽類、爬虫類・ 両生類、昆虫類、クモ類、陸産貝類）	対象事業実施区域及び その周辺 200m の範囲 （猛禽類は対象事業実施区域 及びその周辺 500m の範囲）	1 年を通じた季節毎に、 各動物相の把握に適切な時期
	陸生植物 （植物相、植生）	対象事業実施区域及び その周辺 200m の範囲	植物相 春季、初夏、夏季、 秋季の各 1 回（計 4 回） 植生 夏季、秋季の各 1 回 （計 2 回）
	水生生物（陸水生物） （遊泳動物、底生動物、水生植物）	対象事業実施区域及び その周辺 200m の範囲	1 年を通じた季節毎に、各動物 相・植物相の把握に適切な時期
生態系	陸生動物、陸生植物、水生生物と同じ	—	—
人と自然との 触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動の場	人と自然との触れ合い活動 の場 2 地点	春季、秋季 各 1 回（計 2 回）
景観 （景観写真の撮影）		主要な眺望点等 6 地点	落葉期及び展葉期の各 1 回 （計 2 回）
安全性（メタンガス）		対象事業実施区域内 1 地点	1 回

◆ 現地調査地点

現地調査地点は、対象事業実施区域及びその周辺の環境条件、住居等の分布状況を踏まえ、以下の地点で実施しました。

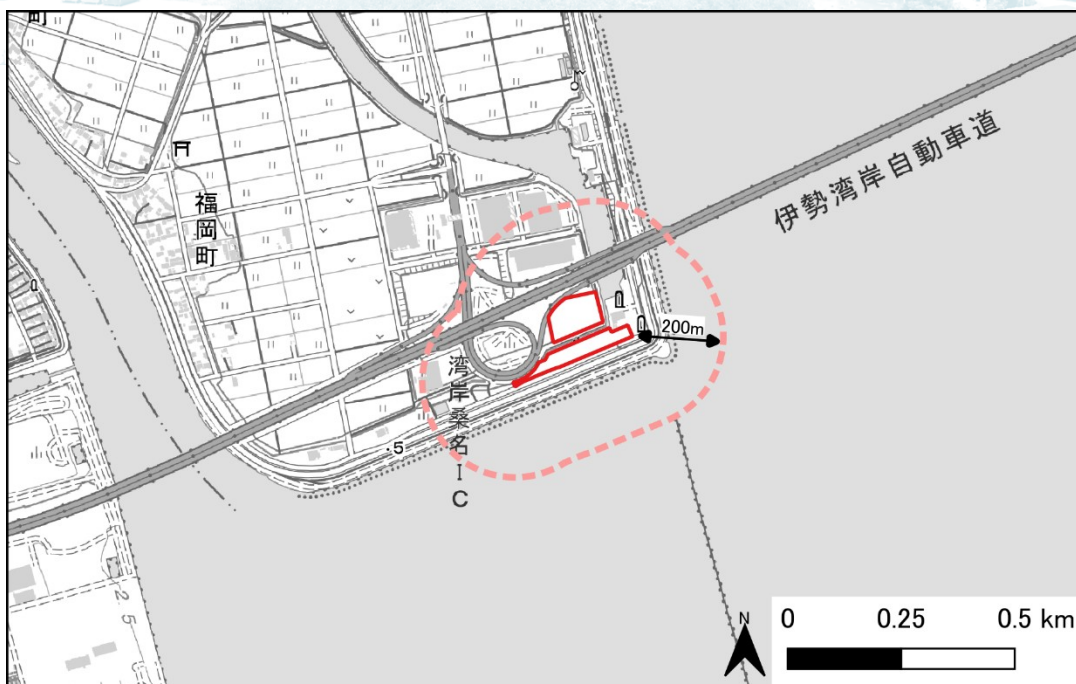


【現地調査】

- : 対象事業実施区域
(実施した調査…環境大気質、地上気象、環境騒音・振動・低周波音、悪臭、土壌、日照障害、安全性)
- : 施設供用時における主要な走行ルート

- | | |
|------------------|--------------------|
| ● : 環境大気質、土壌 | ● : 水質 |
| ▲ : 沿道大気質、交通量 | ◆ : 日照障害 |
| ▼ : 環境騒音・振動・低周波音 | ★ : 人と自然との触れ合い活動の場 |
| ■ : 道路交通騒音・振動 | ★ : 景観 |
| ● : 悪臭 | ■ : 安全性 (メタンガス) |

※上層気象調査は桑名市蓮花寺地内の株式会社ケー・イー・シー本社で行いました。



【現地調査】

: 対象事業実施区域

: 対象事業実施区域周辺 200m の範囲

…陸生動物、陸生植物、水生生物、生態系

(猛禽類は周辺 500m の範囲、水生生物は下流側水路も調査を行いました。)

◆ 現地調査のイメージ

現地調査の様子は以下のとおりです。



◆ 環境影響評価の結果

大 気 質

【環境の現況】

①気象の状況

対象事業実施区域における年間平均風速は 1.9 m/s、最多風向は北西（出現頻度：21.2 %）でした。また、上空の4季の逆転層出現頻度は、全日で下層逆転が16.1 %、全層・二段逆転が28.6 %、上層逆転が17.9 %、逆転なしが37.5 %でした。

②大気質の状況（環境大気質）

環境大気質の調査結果は、すべての項目で環境基準等を下回っていました。

項目		調査結果	環境基準等※
二酸化窒素 (4 地点・4 季 ppm)	日平均値の最高値	最大 0.024	日平均値：0.06 以下
	1 時間値の最高値	最大 0.046	1 時間値：0.1～0.2 以下
浮遊粒子状物質 (4 地点・4 季 mg/m ³)	日平均値の最高値	最大 0.053	日平均値：0.10 以下
	1 時間値の最高値	最大 0.091	1 時間値：0.20 以下
二酸化硫黄 (4 地点・4 季 ppm)	日平均値の最高値	最大 0.002	日平均値：0.04 以下
	1 時間値の最高値	最大 0.005	1 時間値：0.1 以下
微小粒子状物質 (4 地点・2 季 μg/m ³)	期間平均値	最大 10	年平均値：15 以下
	日平均値の最高値	最大 17	1 日平均値：35 以下
塩化水素 (4 地点・4 季 ppm)	日平均値の最高値	最大 0.001 未満	0.02 以下
ダイオキシン類 (4 地点・4 季 pg-TEQ/m ³)	期間平均値	最大 0.012	年平均値：0.6 以下
水銀 (4 地点・4 季 μg/m ³)	期間平均値	最大 0.0015	年平均値：0.04 以下
降下ばいじん (1 地点・4 季 t/km ² /月)	期間平均値	最大 2.20	—

※環境基準等とは、環境基準など、人の健康を保全する上で維持することが望ましい値を示しています。

③大気質の状況（沿道大気質）

沿道大気質の調査結果は、すべての項目で環境基準等を下回っていました。

項目		調査結果	環境基準等
二酸化窒素 (1 地点・4 季 ppm)	日平均値の最高値	0.021	日平均値：0.06 以下
	1 時間値の最高値	0.035	1 時間値：0.1～0.2 以下
浮遊粒子状物質 (1 地点・4 季 mg/m ³)	日平均値の最高値	0.043	日平均値：0.10 以下
	1 時間値の最高値	0.071	1 時間値：0.20 以下
降下ばいじん (1 地点・4 季 t/km ² /月)	期間平均値	0.51	—

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①重機の稼働による大気質への影響（工事中）

重機の稼働による大気質への影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	予測地点	寄与濃度 (年平均値)	予測結果 (年平均値)	予測結果 (日平均値)	環境保全※ 目標	評価
二酸化窒素 (ppm)	最大着地濃 度出現地点	0.00409	0.017	0.035	年平均値： 0.020 以下 日平均値： 0.06 以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		0.00017	0.015	0.036	0.10 以下	○
降下ばいじん (t/km ² /月)	対象事業 実施区域	0.18～1.83	1.28～5.76	－	10 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・排出ガス対策型の重機を採用する。 ・不必要なアイドリングを防止する。 ・必要に応じて、散水をする。						

※環境保全目標とは、環境基準等から設定した事業の影響を評価する目標を示しています。

②土地の造成による粉じんの影響（工事中）

粉じんの巻き上がりをもたらす可能性のある風（風速 5.5m/s 以上）の年間出現頻度は 1.7%と低い確率でした。また、影響を小さくするための対策として、区域内の散水及び浮土の転圧を実施します。以上のことから、土地の造成による粉じんの影響は極めて小さいと予測されました。

③資材の運搬車両の走行による大気質への影響（工事中）

工事車両の走行による大気質への影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	予測地点	寄与濃度 (年平均値)	予測結果 (年平均値)	予測結果 (日平均値)	環境保全 目標	評価
二酸化窒素 (ppm)	走行ルート 沿道	0.0000048	0.011	0.021	年平均値： 0.020 以下 日平均値： 0.06 以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		0.0000009	0.015	0.034	0.10 以下	○
降下ばいじん (t/km ² /月)		0.11～0.51	0.43～1.18	－	10 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・工事車両台数を分散させる。 ・必要に応じて、タイヤの洗浄をする。						

④関係車両の走行による大気質への影響（供用後）

廃棄物運搬車両等の関係車両の走行による大気質への影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	予測地点	寄与濃度 (年平均値)	予測結果 (年平均値)	予測結果 (日平均値)	環境保全 目標	評価
二酸化窒素 (ppm)	走行ルート 沿道	0.0000293	0.011	0.021	年平均値： 0.020 以下 日平均値： 0.06 以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		0.0000041	0.015	0.034	0.10 以下	○
降下ばいじん (t/km ² /月)		0.54～2.58	0.97～3.25	－	10 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・環境負荷が高くなる急発進や急減速等を減らす。 ・関係車両が走行する場合内の道路を定期的に清掃する。						

⑤施設の稼働による大気質への影響（供用後）

施設の稼働による大気質への影響は、年間の平均的な濃度、短時間の高濃度ともに、環境保全目標を下回ると予測されました。

●長期平均濃度予測（年間の平均的な濃度）

項目	予測地点	寄与濃度 (年平均値)	予測結果 (年平均値)	予測結果 (日平均値)	環境保全 目標	評価
二酸化窒素 (ppm)	最大着地濃度出現地点 北東方向 約 600m	0.00083	0.014	0.029	年平均値： 0.020 以下 日平均値： 0.06 以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		0.00008	0.016	0.038	日平均値： 0.10 以下	○
二酸化硫黄 (ppm)		0.00145	0.002	0.004	年平均値： 0.017 以下 日平均値： 0.04 以下	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)		0.00042	0.012	—	年平均値： 0.6 以下	○
水銀 (μg/m ³)		0.00013	0.0015	—	年平均値： 0.04 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素の項目では、法基準より厳しい自主基準値を設定する。 ・点検により、常に正常な運転を行う。						

●短期高濃度（短時間の高濃度）

項目	予測地点	寄与濃度 (1 時間値)	予測結果 (1 時間値)	環境保全 目標	評価
二酸化窒素 (ppm)	最大着地濃度 出現地点 風下 870m	0.02583	0.072	0.1～0.2 以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)		0.00401	0.095	0.2 以下	○
二酸化硫黄 (ppm)		0.07018	0.075	0.1 以下	○
塩化水素 (ppm)		0.01945	0.020	0.02 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・硫黄酸化物、窒素酸化物、ばいじん、塩化水素の項目では、法基準より厳しい自主基準値を設定する。 ・点検により、常に正常な運転を行う。					

※短期高濃度予測では、高濃度が出現しやすい 5 種類の気象条件について予測を行いました。

表中の予測結果は最も高濃度が予測された「接地逆転層崩壊時」の条件であり、この条件は通常 1 時間以内の短時間の現象とされています。

騒音・振動・低周波音

【環境の現況】

対象事業実施区域の敷地境界で測定した環境騒音の調査結果は、伊勢湾岸自動車道の車両走行音の影響を受けて、環境基準等を上回っていました。環境振動、低周波音の調査結果は、環境基準等を下回っていました。

また、道路交通騒音・振動の調査結果は、環境基準等を下回っていました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①重機の稼働による騒音・振動の影響（工事中）

重機の稼働による騒音・振動の影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	予測地点	予測結果	環境保全目標	評価
騒音 (dB)	敷地境界 最大地点	82	85 以下	○
振動 (dB)		66	75 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・ 重機は可能な限り、低騒音型を使用する。 ・ 敷地境界北側、東側及び南側に防音シートを設置する。 ・ 不必要なアイドリングを防止する。				

②資材の運搬車両の走行による騒音・振動の影響（工事中）

工事車両の走行による騒音・振動の影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	時間区分	予測地点	現況結果	予測結果	環境保全目標	評価
騒音 (dB)	昼間	走行ルート 沿道	63	63	70 以下	○
振動 (dB)			39	39	65 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・工事車両台数を分散させる。						

③関係車両の走行による騒音・振動の影響（供用後）

廃棄物運搬車両等の関係車両の走行による騒音・振動の影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	時間区分	予測地点	現況結果	予測結果	環境保全目標	評価
騒音 (dB)	昼間	走行ルート 沿道	63	63	70 以下	○
振動 (dB)			39	40	65 以下	○
〈影響を小さくするための対策〉 ・環境負荷が高くなる急発進や急減速等を減らす。						

④工作物の供用・稼働による騒音・振動・低周波音の影響（供用後）

施設の稼働による騒音・振動・低周波音の影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	時間区分	予測地点	現況結果	予測結果	環境保全目標	評価
騒音（dB）	朝	敷地境界 最大地点	59	49 （寄与）※	55 以下	○
	昼間		57		60 以下	○
	夕		55		55 以下	○
	夜間		56		50 以下	○
振動（dB）	昼間		37	54	65 以下	○
	夜間		34		60 以下	○
低周波音（dB）	－		86	88	90 以下	○

〈影響を小さくするための対策〉

- ・敷地境界に遮音壁を設置する。
- ・屋外に設置する騒音が大きい設備に対し、個別の騒音対策を実施する。
- ・振動の影響が大きい設備に防振パッドを設置する。
- ・点検により、常に正常な運転を行う。

※騒音については、現況結果が伊勢湾岸自動車道の車両走行音の影響を受けて、環境保全目標を上回っていることから、計画施設から発生する音の大きさが目標と整合しているかについて評価しました。

悪 臭

【環境の現況】

対象事業実施区域の敷地境界及び周辺の環境地点で調査した悪臭の調査結果は、環境基準等を下回りました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①煙突排ガスによる悪臭の影響（供用後）

煙突排ガスによる悪臭の影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

項目	予測地点	現況結果	予測結果	環境保全目標	評価
臭気指数	最大着地濃度 出現地点	10 未満	10	12 以下	○

〈影響を小さくするための対策〉

- ・ごみピット内の空気をごみ焼却のため炉内へ送風し、悪臭物質を高温分解する。
- ・点検により、常に正常な運転を行う。

②施設からの悪臭の漏えいによる影響（供用後）

悪臭の漏えいを防止するため、廃棄物保管時の対策やごみピットの陰圧化、建物開口部にシャッターを設置する等の対策を実施するため、悪臭は現況と変わらず、環境保全目標を下回ると予測されました。

水 質

【環境の現況】

平常時の調査では、河川水の水素イオン濃度、浮遊物質量は環境基準等に適合していました。また、降雨による河川水の濁りの状況の調査では浮遊物質量が最大で 220mg/L でした。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①コンクリート打設工事によるアルカリ排水の影響（工事中）

コンクリート打設工事による排水は、降雨により発生しますが、影響を小さくするための対策としてコンクリート打設面のシート養生を実施することで、アルカリ排水による影響は小さいと予測されました。

②土地の造成による濁水の影響（工事中）

影響を小さくするための対策として、造成工事中に仮設沈砂枡を設置することで、日常的な降雨と短期的な強い降雨で発生する濁水の影響は、現況と同程度もしくは下回ると予測されました。

土 壌

【環境の現況】

土壌中のダイオキシン類の濃度は環境基準等を下回っていました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①煙突排ガスによる土壌への影響（供用後）

煙突排ガスに含まれる微量のダイオキシン類による土壌への影響は、環境保全目標を下回ると予測されました。

また、影響を小さくするための対策として、点検により常に正常な運転を行います。

日 照 阻 害

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①工作物の存在による日照障害の影響（供用後）

計画施設の日影は対象事業実施区域外に生じるものの、日影の影響を受ける人家、利用される施設はなく、日影が生じる範囲及び変化の程度は小さいと予測されました。

また、影響を小さくするための対策として、煙突を可能な限り敷地の南側に配置することや、事務所棟は湾岸桑名 IC ランプへの影を最小限にする設計とします。

陸生動物・陸生植物・水生生物・生態系

【環境の現況】

①陸生動物

国や三重県による指定等をもとに選定した保全すべき種のうち、鳥類（猛禽類含む）16種、爬虫類1種、昆虫類2種、クモ類2種の計21種が現地調査で確認されました。

②陸生植物・水生生物

保全すべき種のうち、陸生植物10種類、水生生物5種類が現地調査で確認されました。

③生態系

対象事業実施区域を含む地域を特徴づける生態系への影響を把握するため、生態的位置や生物多様性の維持の観点から、チョウゲンボウ、タヌキ及びハクセキレイの3種を注目種に選定し、分布状況等について調査しました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

対象事業実施区域は建造物や造成地からなり、確認された保全すべき種及び注目種の主な生息地・生育地は区域外に広く存在しています。そのため、工事の実施及び工作物の存在による影響はいずれも極めて小さいと予測されました。

また、影響を小さくするための対策により、影響のさらなる低減に努めます。

〈影響を小さくするための対策（工事中）〉

- ・重機は可能な限り、低騒音型を使用する。
- ・造成工事中は仮設沈砂枡を設置し、濁水の発生を抑制する。
- ・盛土の浮土を速やかに転圧する。
- ・作業員の周辺環境への立ち入りを制限し、ごみの管理を徹底する。
- ・建設工事及び資材の運搬車両の走行は原則として昼間とする。

〈影響を小さくするための対策（供用後）〉

- ・遮音壁を設置し、施設稼働時の騒音を抑える。
- ・廃棄物に接触した雨水は焼却炉で再利用し、場外に排出しない。
- ・施設から出る生活排水は合併浄化槽を介して排出する。
- ・関係車両の走行は原則として昼間とする。
- ・夜間照明は最小限の光量と適切な照射方向とする。

チョウゲンボウ



タヌキ



ハクセキレイ



写真は現地調査時に確認された動物です。

景観・人と自然との触れ合い活動の場

【環境の現況】

①景観

周辺 6 地点の主要な眺望点等から写真撮影により現況を調査しました。

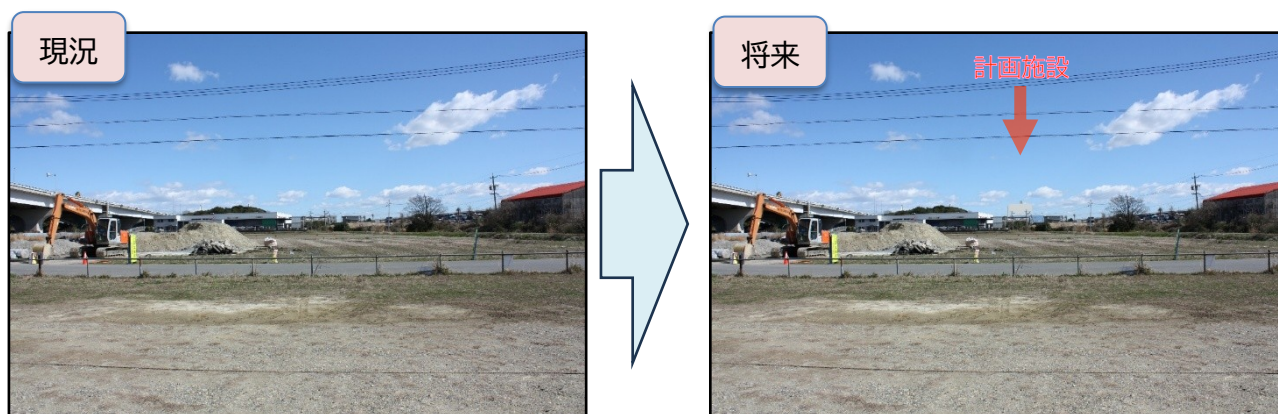
②人と自然との触れ合い活動の場

対象事業実施区域の南側釣り場及び東側釣り場では、釣りやウォーキング等の利用が確認されました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①工作物の存在による景観への影響（供用後）

計画施設の外壁は低彩度を基調とすることで、周囲の建物や伊勢湾岸自動車道といった構造物と高さや色調に大きな違いはなく、景観の変化は小さいと予測されました。



②工作物の供用・稼働による人と自然との触れ合い活動の場への影響（供用後）

大気質・騒音・景観の予測結果から、釣り場の利用への影響は小さいと予測されました。

廃棄物等・温室効果ガス等

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①工事の実施による廃棄物等の影響（工事中）

造成工事による発生土は場内で再利用をすることで残土は発生しません。

建築副産物については、発電利用や燃料化、再原料化、再資源化による有効利用を行います。

②工作物の供用・稼働による廃棄物等の影響（供用後）

施設の稼働による焼却残渣は、再資源化として路盤材等への有効利用を計画しています。有効利用できなかったものは外部の産業廃棄物処理業者に委託し、適切な処理・処分を行います。

③工作物の供用・稼働による温室効果ガス等の影響（供用後）

施設における廃棄物の焼却や電力・燃料の使用により排出される温室効果ガス（二酸化炭素やメタン）の排出量を算出しました。

影響を小さくするための対策として、廃棄物焼却による熱を利用した発電を計画しています。

そのほか、省エネルギー照明等の採用や助燃剤の削減等を行います。

安全性

【環境の現況】

文献調査から、対象事業実施区域の地下 1,500m 付近の層には、メタンガスが存在しているものと考えられます。メタンガスが敷地内の温泉井戸を通じて漏出するおそれがあったことから、調査を行いました。

現地調査の結果、温泉井戸内の空気に含まれるメタン濃度は非常に低濃度であるため、温泉井戸からメタンガスが漏出している可能性は極めて小さいと考えられました。

【環境影響の予測評価と影響を小さくするための対策】

①工作物の存在による安全性への影響（供用後）

温泉井戸は現時点で継続的なメタンガスの漏出が認められず、今後は埋め戻すことで、漏出する可能性はさらに小さくなると予測されました。

また、計画施設の建設にあたって、ガスが存在する層に達するような掘削・杭打ち等を行わないことから、地表からの漏出も生じないと予測されました。

◆ 事後調査計画

事業の実施に伴う環境影響を監視することを目的として、以下の事後調査を行う計画です。

環境項目		調査項目	事後調査の地点	評価に用いる基準
大気質	工作物の供用及び稼働	微小粒子状物質	対象事業実施区域 1 地点	微小粒子状物質の 環境基準
騒音	工作物の供用及び稼働	騒音レベル	敷地境界で最大と 予測された地点	三重県生活環境の 保全に関する条例
低周波音	工作物の供用及び稼働	低周波音圧レベル	敷地境界で最大と 予測された地点	低周波音の参考値
悪臭	工作物の供用及び稼働	特定悪臭物質濃度、 臭気指数	対象事業実施区域 風上、風下 2 地点	悪臭防止法の 規制基準

◆ ご意見の提出について

廃棄物焼却施設建設事業の環境影響評価準備書について、環境保全の見地からご意見をお持ちの方は、令和 8 年 10 月 18 日（日）までに、意見書を下記の送付先までお送りください。

〔送付先〕

株式会社ケー・イー・シー 桑名事業所

〒511-0844 三重県桑名市福岡町 473 番地の 7